

第 3 次丹波市総合計画策定に係る
市民ワークショップ及び
第 2 回若手職員プロジェクトチーム会議
(ワークショップ) 実施報告書

令和 5 年 5 月
丹波市

目次

I	市民ワークショップ	1
1.	目的	1
2.	実施概要	1
3.	ワークショップの方法	2
4.	ワークショップの結果	4
5.	2つの視点での検討	11
II	第2回若手職員プロジェクトチーム会議（ワークショップ）	12
1.	実施概要	12
2.	ワークショップの方法	12
3.	ワークショップの結果	13
4.	ワークショップの風景	15

I 市民ワークショップ

1. 目的

第3次丹波市総合計画の策定にあたり、市の現状や将来などについてみんなで語り合い、「丹波市がめざすべきまちの将来像」を考えることを目的に開催しました。

市内在住の方や、通勤・通学をしている方など、丹波市に関わりのある参加者が、全5回のワークショップを通じて、多様な立場や視点から市の未来について意見を出し合い、いただいた意見の取りまとめを行って、総合計画策定に向けた基礎資料とします。

さらに、ワークショップを契機として、参加いただいた皆様による主体的なまちづくりにつなげます。

2. 実施概要

【対象者】

○市内在住、在勤、在学の人

【参加者の募集方法】

○市民アンケートに参加申込書の同封

○チラシ

○市のHPやSNS

○自治会長等を通じての募集

【開催日時および会場・参加人数】

	開催日時		市民 参加者数	会場
第1回	2月24日（金）	19:00～21:00	28人	氷上住民センター 大会議室
第2回	3月4日（土）	13:30～15:30	25人	
第3回	3月9日（木）	19:00～21:00	28人	
第4回	3月18日（土）	13:00～15:30	21人	
第5回	3月23日（木）	19:00～21:00	27人	

+各回、ファシリテーター（若手職員）10人参加

【開催テーマ】

	開催テーマ
第1回	キックオフ&アイスブレイク・イベント～クイズで考える丹波市～
第2回	丹波市の強み・弱みを考える①“子育て・教育”“観光・移住定住”
第3回	丹波市の強み・弱みを考える②“医療・福祉”“商工業・農林業”“地域づくり”
第4回	実現したい丹波市の将来像を考える
第5回	発表用資料を作る&WSで考えた将来像の発表

3. ワークショップの方法

【第1回】

■令和4年12月に実施された、第3次丹波市総合計画策定にかかる市民アンケートの結果をグループごとに予測し、グループの参加者の仲を深めるとともに、丹波市の状況について、楽しんで考えていただくことを目的に実施しました。

クイズ質問と回答

クイズで考える丹波市 第1問

〈18歳以上の丹波市民〉
まちづくりへの関心の有無

1. とても関心がある 2. どちらかと言えば関心がある
3. どちらとも言えない 4. あまり関心はない 5. まったく関心はない

“関心がない”と答えた人の割合が最も多かったのはどの年代でしょうか？
推理してください。

1. 20歳代まで 2. 30歳代 3. 40歳代
4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳代以上

(正解なら40点)

クイズで考える丹波市 第2問

〈丹波市が「とても好き」「どちらかと言えば好き」と答えた高校生〉
丹波市での将来の居住意向

1. ずっと住み続けたい、住みたい
2. 市外に出ても、将来は丹波市で暮らしたい
3. 住みたない
4. わからない

「1. ずっと住み続けたい、住みたい」と回答した高校生は何%だったでしょうか？
推理してください。

(正解に近い順に50点、25点、10点)

クイズで考える丹波市 第3問

〈30歳代までの丹波市民〉
あなたにとって、住みやすさの判断をする上で特に重要な条件・要素(3つまで選べる)

1. 豊かな自然環境 2. 美しい街並み
3. 食・住の豊かさ・安全性 4. 災害が少ない
5. 犯罪や交通事故が少ない 6. 家賃や食料費など生活にかかる費用
7. 医療機関の充実 8. 商業施設の充実
9. 働きやすさ 10. 福祉の充実、介護・福祉施設等の充実
11. 教育や子育てのしやすさ 12. 道路や交通機関の利便性
13. 文化・スポーツ環境の充実 14. 地域コミュニティの絆、ご近所との付き合い

多かった回答は何番でしょうか？
上位3つを推理してください。

ヒント: 40～50歳代や60歳代以上では、上位3つはともに1番・4番・7番でした
(正解ひとつとして30点、ふたつで60点、3つで110点)

クイズで考える丹波市 第1問

	「とても関心がある」「どちらかと言えば関心がある」	「どちらかと言えば関心がある」「まったく関心はない」	「あまり関心はない」「まったく関心はない」
10歳・20歳代	42.1%	31.6%	24.6%
30歳代	50.0%	20.5%	29.0%
40歳代	45.7%	30.6%	22.6%
50歳代	39.8%	37.5%	21.9%
60歳代	40.1%	34.3%	23.3%
70歳代以上	47.4%	27.3%	16.2%

クイズで考える丹波市 第2問

		居住意向			
		ずっと住み続けたい、住みたい	市外に出ても、将来は丹波市で暮らしたい	住みたない	わからない
愛着度	「とても好き」「どちらかと言えば好き」	7.3%	34.1%	18.5%	40.1%
	「どちらかと言えば好き」「とても嫌い」	0.5%	7.9%	45.3%	46.3%
	「どちらかと言えば嫌い」「とても嫌い」	0.0%	2.3%	90.7%	7.0%

クイズで考える丹波市 第3問

	第1位	第2位	第3位
30歳代まで	豊かな自然環境 33.8%	教育や子育てのしやすさ 26.9%	道路や交通機関の利便性 26.9%
40・50歳代	豊かな自然環境 33.6%	災害が少ない 32.3%	医療機関の充実 31.8%
60歳代以上	災害が少ない 46.6%	豊かな自然環境 39.8%	医療機関の充実 33.3%

【第2回・第3回】

■第2回では、「子育て・教育」「観光・移住定住」の2テーマについて、第3回では、「医療・福祉」「商工業・農林業」「地域づくり」の3テーマについて強みや弱みを考え、さらに10年後に変わってほしいことについてグループで話し合った結果を、最後にグループごとに発表しました。

進め方

第2回

本日の進め方

本日のテーマ
「子育て・教育」「観光・移住定住」

ステップ1 丹波市の強み・弱みについて各自で考える

ステップ2 考えた強み・弱みを共有する(チーム内)

ステップ3 10年後に変わって欲しいことは何だろう?(みんなで考える)

ステップ4 本日の成果を発表する(各チームから全体に)

第3回

本日の進め方

本日のテーマ
「医療・福祉」「商工業・農林業」「地域づくり」

ステップ1 丹波市の強み・弱みについて各自で考える

ステップ2 考えた強み・弱みを共有する(チーム内)

ステップ3 10年後に変わって欲しいことは何だろう?(みんなで考える)

ステップ4 本日の成果を発表する(各チームから全体に)

模造紙まとめ例

本日の進め方 **ステップ1～3**

模造紙作成のイメージ例(これにとらわれる必要はありません)

チーム8(愛称:まちづくりザウルス)

子育て・教育: 経済的に大変、学費、のびのび育つ、子どもの居場所、保育所

観光・移住定住: 観光スポット、特産品、イベント、通ごし方、移住者にとっての魅力・欠点

小学生が安心して遊べる場所を増やしたい
こども食堂を増やしたい
子育ての孤立をなくしたい

魅力ある(有る)特産品・土産物を増やしたい
空家の活用を増やしたい
カフェを増やしたい

【第4回】

■「実現したい丹波市の将来像を考える」として、グループごとに【将来像】及び【将来像実現のための目標】を話し合い、第5回に向けての案を作成しました。キーワードに関して、最後にグループごとに発表しました。

進め方

本日の進め方

本日のテーマ

実現したい丹波市の将来像を考える

- ステップ1 目指したい都市のキーワードを考えてみよう(各自で)
- ステップ2 キーワードをヒントに将来像を考えてみよう(各チームで)
- ステップ3 丹波市としての10年後の目標を考えてみよう(各チームで)
- ステップ4 本日出されたキーワードのみを発表する(各チームから全体に)

本日の進め方

キーワードの模造紙



ステップ1~3

模造紙2枚を
使い分ける

将来像と目標の模造紙

〈フリーズ・メモ〉

●●●と●●●

●●●な都市

●●●●都市

〈将来像〉

●●●●●●●●●●

〈目標〉

■●を増やす

■●を減らす

■●を増やす

■●を増やす



【第5回】

■「発表用資料をつくる&ワークショップで考えた将来像の発表」として、グループごとに【将来像、目標、市民・地域と市・行政の役割】及び【発表用資料】を話し合いながら作成し、最後にグループごとに発表しました。

進め方

本日の進め方

本日のテーマ

発表用資料を作る&WSで考えた将来像の発表

- ステップ1 将来像&目標の確認・修正
(各チームで)
- ステップ2 市民・地域と市・行政の役割を
考えよう(各チームで)
- ステップ3 発表用資料を作ろう
(各チームで)
- ステップ4 成果を発表しよう
(各チームから全体に)

[illegible]

4. ワークショップの結果

第2回～第5回にかけて検討された、丹波市の強み・弱み、将来像等については次のとおりとなりました。

【丹波市の強み】

■子育て・教育

- 自然が多く、予想できない学びがつかれる
- 第一次産業が身近にあり、体験学習できる機会が豊富
- レインボー教室など不登校支援もできている
- 少人数学級、eスポーツ導入
- ふるさと学習が充実している
- 教育施設が整っている など

■観光・移住定住

- コワーキングスペースなど、新しい仕事をつくる場所がある
- 買い物に行けば、なんでも大体揃う
- 土地が安い
- 有名な食材が多い（小豆・黒大豆・栗・猪・鹿）
- 自然が豊かでスローライフが楽しめる環境
- 人を呼ぶコンテンツが豊富（そば／パン／パラグライダー／トレイルランニングなど）
- 市の相談窓口の対応が良く、移住支援が充実している
- 阪神間から約1時間 など

■医療・福祉

- 救急車が旧町ごとに待機している
- 多可町、丹波篠山市との連携
- 医療センターがある
- ケアマネジャーが多く、デイサービスが充実している
- 子ども食堂が地域に広がりつつある など

■商工業・農林業

- 野菜がよく育つ、有機栽培が盛ん、種類が多い
- 農の学校等、興味のある人の増加
- 商店街の充実、商工会加入率が高い
- 唯一無二の技術を持っている企業が多い
- 丹波三宝、お米がおいしい など



■地域づくり

- 地区ごとにお祭りがある
- ボランティアや市民活動が盛んで、がんばる人が多い
- 地域共同作業による連帯感が強い、助け合い
- 各々の地域（地区）に文化・歴史・風習が残っているところが多い
- 水分れ
- 各地区に自治協議会がある
- 若者たちも消防団に入っている など

【丹波市の弱み】

■子育て・教育

- 子育て福祉のサポートがうすい（１人でかかえてしまいやすい環境）
- 学校が少ない・子どもが少ない／クラスの人数
- 学び方が限られる
- 市内で進学／大学や専門学校の選択肢がない
- 安全に遊んだりできる公園がない
- 産科が少ない
- 自然を活かした遊び場が少ない
- ものづくりの会社が多いのに、市内にもものづくり関連の高校がない など

■観光・移住定住

- ＹｏｕＴｕｂｅｒがいない、動画コンテンツによるＰＲが乏しい
- 移住するメリットが低い
- 水道代が高い
- ゴミ袋が高い
- バス等の交通機関が不便
- 土産物のアピール力が低い
- 観光向けの宿泊施設がない
- 観光が旧６町それぞれでやっており、連携ができていない
- 家庭内で「都会にいった方がいいと思う」という会話がが多い
- 村意識が強い など

■医療・福祉

- 都会へ行かないと専門医療・高度医療が受けにくい
- 医療と福祉の差を埋められていない
- 地域に福祉の専門家が少ない
- 学校等に心理カウンセラーの配置がされていない
- 休日診療／病院 土日夜に病院にかかれない
- 老人ホームの入所が難しい

- 高齢者の移動手段が乏しい
- 高齢者（ひきこもり）や、自宅にいる人の声が届かない
- 老老介護の不安がある
- 障害で施設に行けない人の交流場所がない など

■商工業・農林業

- 市内消費が少ない
- 働き手不足・アルバイトの学生減（少子化）
- 田んぼをする人が減って、放棄地が増えてきた
- 化学肥料、除草剤の使いすぎ
- 農のブランド“たんば”を活かせていない
- インターネットを使った販売ができない
- 後継者不足
- 農業、林業でもうからず、生計が立てられない
- 生活収入としては少ない
- 市内の会社の3割が製造業なのに、工業系人材を育てる教育機関がない
- 兵庫県で最も広い農地を有しているのに、大型農業をしている人が少ない など

■地域づくり

- 若い人が定住できない、帰ってこない
- リーダーが少ない
- ボランティアに頼りすぎ
- 自治会ごとの交流が少ない、付き合いが面倒
- 大雪の時の除雪が大変
- 村の業務が大変
- なかなか旧町の壁が崩せない
- まちづくりへの市民参加が少ない
- 地域コミュニティが弱いと感じる
- 子ども達が参加できるコミュニティがなくなっている など

【目標（10年後に変わっていて欲しいこと）】

■子育て・教育

- ☆子どもを増やす
- ☆大学を誘致する
- ☆人が少ない地域でも、良い教育が受けられるようにする
- ☆子育て世代の負担をゼロに
- ☆通学路などの安全な通路を増やす ※信号を増やす等
- ☆子どもが参加する仕組みを増やす
- ☆教育にお金を（ジャブジャブ使いたい）増やす など

■観光・移住定住

- ☆新産業をおこす
- ☆企業を増やす
- ☆公共交通を増やしてバス料金を下げる
- ☆農産物PRを強化する
- ☆観光施設を増やす(カフェ・飲食店・宿泊施設等)
- ☆魅力のPR力を強化する
- ☆農林業への支援(スタートアップ)を増やす
- ☆空き家の流動性を増やす
- ☆市内周遊者を増やす
- ☆地産地消に力を入れる など

■医療・福祉

- ☆医療と福祉の差を埋める(医療に頼りすぎず、自ら健康に)
- ☆医療センターを利用しやすくする、充実させる
- ☆元気な高齢者の交流機会を増やす
- ☆中心地だけではなく、各地域でも医療機関を充実させる など

■商工業・農林業

- ☆農業者の負担減(コスト・設備)
- ☆使える農地を増やす(流動化再分配)
- ☆スマート農業導入の環境整備を促進する
- ☆農林業の商業化を促進する
- ☆ブランドの有効活用、PRの向上を図る
- ☆農業でちゃんと収益化ができる販路を増やす
- ☆後継者／人材を増やす など

■地域づくり

- ☆自治会費・入村料を下げる、もしくはなくす
- ☆河川付近を整備する(サイクリング・散歩道)
- ☆村の活性化を図る(若返り・新しい居住者)
- ☆若い人も参加できる地域づくりに力を入れる
- ☆市民プラザを活用して、より合いを復活させる
- ☆住民同士のつながりを増やす
- ☆公共交通を充実させるため、道路を整備する など

【各グループの将来像・目標・市民や行政の役割について提案】

グループ1 将来像	
新時代に対応できるほどよい丹波市 ～丹産丹消のまち～	
想い	
災害・コロナや戦争などの非常時でも、地域で助け合える暮らしやすさ 自然ののどかさ、人のおだやかさ⇒「ほどよい」	
目標1	地産地消を増やす
役割1	<市民・地域> ◆地元産のモノを買う・食べる <市・行政> ○もうかる農業になるようにPR ○今日のご時世に、問題意識を啓蒙する ○まずは給食から地産地消を！
目標2	美しい山・川・田園風景を増やす・維持する
役割2	<市民・地域> ◆土地の維持・管理（花や作物を植えるなど） ◆ゴミを捨てない、ゴミを拾う <市・行政> ○空き家、空き地のコントロール（活用） ○条例

グループ2 将来像①	
市民が主体となるまち	
想い	
目標1	学ぶ場を増やす、市民が発言できる場を増やす
役割1	<市民・地域> ◆学びの場への積極的な参加 <市・行政> ○制度の柔軟な対応
グループ2 将来像②	
自然と人が豊かに育つ持続可能なまち	
目標1	環境保全・景観
役割1	<市・行政> ○農業の促進 ○森林の保護

グループ3 将来像

山・川・空 すべてを感じる ^{まごころ} 丹の里

想い

丹波市の魅力は自然であり、その魅力を外にもPRができるような将来像（空はイメージにないかもしれないがパラグライダーが有名になってきている）

目標1	人を増やす
役割1	<市民・地域> ◆魅力を発見する、発信する ◆魅力を出す ◆語り部 <市・行政> ○観光大使（市認定） ○指針を決める ○PRする
目標2	丹波の魅力を再発見する機会を増やす
役割2	<市民・地域> ◆行政支援を受ける ◆インフルエンサーになる <市・行政> ○お金を出す ○イベントなどきっかけの増加

グループ4 将来像

一人一人が輝く自主創造の我がまち ^{まごころ} 丹波

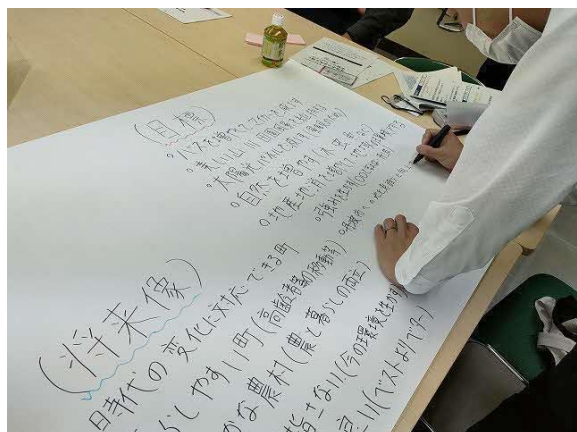
想い

若者から高齢者まで、一人一人の思いがこれからの丹波市を形づくっていく！

目標1	まちづくりに参画する人を増やす(若者も)
役割1	<市民・地域> ◆関心をもってできることからやっていく ◆意見の言える地域にする ◆近所のことから手を取りあう <市・行政> ○テーマを決めて声を聞きに行く ○計画をわかりやすく伝える
目標2	文化レベルを上げる、(文化)施設利用者を増やす
役割2	<市・行政> ○芸術や文化に触れる機会を増やす
目標3	支援を増やす、規制を減らす
役割3	<市民・地域> ◆意見を上げていく ◆要望を出していく <市・行政> ○意見を上げやすい環境づくり ○透明性、明確化

目標 4	美しい自然を守る
役割 4	< 市民・地域 > ◆自然を活用する、触れる ◆環境活動にメリットを ◆1つのゴミ拾いからやっていく < 市・行政 > ○景観を美しく保つ ○高齢化でできないところをカバーする

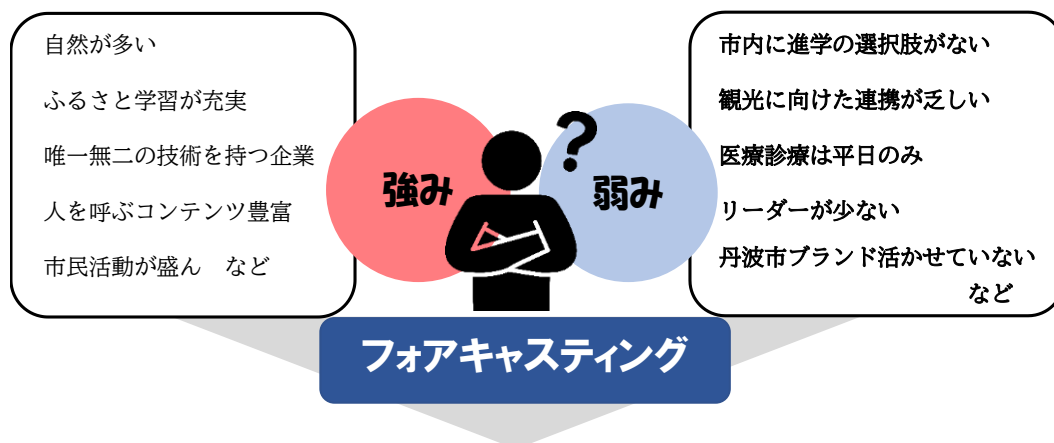
グループ5 将来像	
決断して実行する丹波	
想い	
行政も市民も決断したことはしっかり実行する	
目標 1	自然：手のつけられない自然を減らす
役割 1	< 市民・地域 > ◆意識の向上 < 市・行政 > ○管理
目標 2	教育：子どもの自由を増やす
役割 2	< 市民・地域 > ◆地域の子・参画 < 市・行政 > ○施設・環境の整備
目標 3	医療・福祉：老人サロンを増やす
役割 3	< 市民・地域 > ◆参画 < 市・行政 > ○施設・環境・機会をつくる



5. 2つの視点での検討

今回の市民ワークショップでは、最初に、フォアキャスティングの視点で、現在の丹波市の強みや弱みを分析し、それを強化・充実・維持するための方策として、現状を起点に考えられるまちづくりの目標について話し合いました。次に、バックキャスティングの視点で、実現したい将来像を起点に考えられるまちづくりの目標について話し合いました。

フォアキャスティング・バックキャスティングの2つの視点で検討を重ねたことで、現世代の暮らしやすい丹波市の未来を踏まえつつ、将来世代が活躍する丹波市の未来について議論が深まりました。



強化・充実・維持するための目標

魅力のPR力を強化する
元気な高齢者の交流機会を増やす
若い人も参加できる地域づくりに力を入れる

医療センターを利用しやすくする
後継者/人材を増やす
大学を誘致する
など

市民が描く将来像

新時代に対応できるほどよい丹波市
～丹産丹消のまち～
決断して実行する丹波
市民が主体となるまち

自然と人が豊かに育つ持続可能なまち
山・川・空 すべてを感じる丹の里
一人一人が輝く自主創造の我がまち 丹波

バックキャスティング

将来像を達成するための目標

地産地消を増やす
子どもの自由を増やす
丹波の魅力を再発見する機会を増やす

美しい自然を守る
市民の学ぶ場、発信の場を増やす
など

Ⅱ 第2回若手職員プロジェクトチーム会議（ワークショップ）

Ⅰ. 実施概要

テ ー マ：「第3次丹波市総合計画策定に向けて」「目指したいまちの姿」の検討

日 時：令和5年4月17日13:30～15:30

開催会場：丹波市役所 第2庁舎 2階会議室

参 加 者：丹波市役所若手職員プロジェクトチーム17名

研修内容：

- （1）実施について（パワーポイントを使用した講義形式）
- （2）ワークショップの実施
- （3）発表

講義内容：「総合計画について（自治基本条例、総合計画策定方針の概要）」、「本日の進め方（ステップごとの詳細説明）」の大きくは2点について、パワーポイントを使用しながら、15分程度の講義を行った。

2. ワークショップの方法

Ⅰ グループ4～5名の4グループ編成で、次の流れのワークショップを実施した。

本日の検討ステップ	
①市民ワークショップ提案の、市民の意見や 思いについて確認・共有する	【15分程度】
②“目指したいまちの姿”を考えるヒント	【20分程度】
③“目指したいまちの姿”を考える 10年後にどんなまちを実現したいか → 実現するためにできること・していくべきこと	【60分程度】
④“目指したいまちの姿”を発表する	【10分程度】

15

3. ワークショップの結果

グループ1	
市民が求めている将来のまちの姿	
10年後に“目指したいまちの姿”	職員が実現するためにできること・していくべきこと
多文化共生が推進されるまち	・総合相談窓口の設置 ・日本語教室の充実 ・交流の場づくり ・多文化共生推進の計画策定
発表内容	
他国からの定住者によって人口減少が少しでも抑制されることが期待される。 ただし、支援や相談窓口の充実や、つながりを生む交流の場が必要。	

グループ2	
市民が求めている将来のまちの姿	
・農業（地産地消） ・教育、学ぶ場（特徴を出す・教える人を増やす） ・住民自治を自分事として考えていく ・移住促進 ・若い人を呼び込む ・収入確保 ・地域づくり ・自然豊か ・魅力をPR（パラグライダー等）	
10年後に“目指したいまちの姿”	職員が実現するためにできること・していくべきこと
渋滞のないまち	・公共交通機関の整備 ・道路整備 ・デマンド ・国道175号線の高架化
文化・芸術が日常にあるまち	・ホールスタッフの担い手確保（ボランティア含む） ・PR ・奨励金 ・文化施設の整備 ・文化部（部活）への支援 ・場づくり
川を活かしたまち （加古川の河川敷を活用（遊歩道など））	・清流のPR ・釣りPR ・加古川河川敷にランニングコース（竹田川含む） ・小川に入って遊べるように整備 ・草刈り不要となるように整備
観光拠点をハシゴできるまち	・拠点 ・宿泊地の整備 ・PR ・近隣市町と連携
訪れた人を帰らせないまち	・（雨でも）一日遊べる公園 ・公園付近に飲食店 ・宿そのものの魅力（泊まりを目的としてもらう） ・女子野球の観戦ツアー
公立大学のあるまち	
教育機関（看護学校含む）	
発表内容	
柏原地域から氷上地域の道路が渋滞しているため、道路整備や公共交通機関の整備が必要。 部活動（運動部・文化部）の地域移行の支援が必要。また、イベント等でPRを図ることが必要。 市内に川がいくつかあるので、グラウンドやバーベキュー場を整備するのもよい。 特色ある宿泊施設や公園を整備して、宿泊を伴う観光客を増やすことが大切。	

グループ3	
市民が求めている将来のまちの姿	
・自然、景観　・人、市民の主体性　・地域協働、つながり	
10年後に“目指したいまちの姿”	職員が実現するためにできること・していくべきこと
住みよいまち誰もが快適にストレスがないまちづくり	・木を伐採し、花粉症のないまちにする ・植林し防災対策を行う ・災害に強いまち→防災倉庫を地域に1つは作る
利用しやすいまち（コンパクトシティ）デジタルでつながる地域づくり	・DXの推進 ・専門職員の採用 ・タブレット配布 ・Free Wi-Fi ・IoT技術 ・地域へ伝える職員
子育てしやすいまち 自分たちで子育て方法を選択できるまち	・校区にとらわれない ・経済的負担を減らす ・担い手の充実（職員の待遇改善）
発表内容	
花粉症をなくすことができれば、市としてのポイントは高くなるのではないかな。 伐採した箇所の植林は、観光名所になるような桜や紅葉などとするといよい。 専門員をヘッドハンティングすることで、DXが推進できる体制を整備することが重要。 教育現場の処遇改善のために、支援していくことが大切。	

グループ4	
市民が求めている将来のまちの姿	
・行政の実行力、決断力 ・自然を大切にする ・スマート農業 ・山材を活かしたまち ・市内の医療が充実しているまち ・教育環境を整備して人口増 ・文化の継承 ・鉄道の整備	
10年後に“目指したいまちの姿”	職員が実現するためにできること・していくべきこと
空き家ゼロのまち	・移住テラスの充実 ・空き家マップの作成 ・住める空き家を安く貸し出す ・マッチングアプリを作る
交通弱者ゼロのまち	・自動運転バスを運用する ・道路を整備する ・デマンドの本数を増やす ・白タクを可能にする制度改正 ・マッチングアプリを作る
どこにでもアクセスできるまち	
高齢者が社会の中で活躍できるまち	
発表内容	
空き家を安く貸し出すなどできるだけ活用する方法と、取り壊していくことの検討も必要。 自動運転のバス配置など、道路整備を含めて交通弱者ゼロを達成できるといよい。	

4. ワークショップの風景

